



TITLE:

京都大学瀬戸臨海実験所振興会水族館月報 No. 79

AUTHOR(S):

CITATION:

京都大学瀬戸臨海実験所振興会水族館月報 No. 79. 京都大学瀬戸臨海実験所振興会水族館月報 1959, 79: 75-80

ISSUE DATE:

1959-04-06

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/186978>

RIGHT:

京都大学瀬戸臨海実験所振興會

水族館月報

No. 79

1959. 3月 (4月6日)

録 事

3月9～11日、水産庁主催の昭和32年度近畿中国ブロック浅海増殖補助事業調査報告検討協議会が白浜町白浜山荘において開催され、実験所側より布施・原田両所員が出席した。最後の日には出席者一同実験所施設水族館を見学した。

昨年(1958年)3月15日明光バス株式会社・番前山植物園・振興会3者の間で水族館及び動植物園の入場券を付した観光券発行の契約書を取りかわしたが同入場券の料金回収が明光バス株式会社の不誠意により毎月円滑に履行されず、2月末現在で未回収金が4,516,365円の多額に上り、爾後の契約更新の円通しもつかない状態にたちいたったので、3月7日明光バス会社に異議申立てを行った。仍って3月21日生駒監事京都より来白し、3者会談の約束であったが、またまた同会社側の不誠意により正式会談が拒否された。その後、督促を重ねた末、31日午後ぎりぎりになって浦委員の強談の結果、^{3月20日までの}残額5,115,000円が現金及び小切手の形で支拂われた。但し、正式の契約更新は5月間催予定の次の定期総会まで持ち越される筈。

昨年の春防風林を作る目的で臨海浦に面した護岸の上に植えつけられた松苗が夏中のキャンプ客や海水浴客のため踏みつけられて、ほとんど跡方もなくなったので、新たに500本の松苗を足植し、無用の侵入を防ぐために囲いを設けた。

3月22日より4月上旬にかけて春の臨海実習が始まった。

原田研究員のイギリス留学が本決まりとなったので旅券申請を行なった。

月末より4月始めにかけての春の学会出席のため、原田・布施・山路各所員が相次いで下又は東上した。

3月21日芝脇事務員の祖母キクさんが92才の高令を以て死去された。謹んで哀悼の意を表する。

業 務 概 況

◎ 3月の入場者数

区 分	水族館発売数		明光バス発売数		合 計	
	本月分計	累 計	本月分計	累 計	本月分計	累 計
大 人	10516	86777	27342	198028	37858	284805
小 人	922	7196	877	6036	1799	13232
団 体	23358	170264	—	—	23358	170264
合 計	34796	264237	28219	204064	63015	468301
無料入場者					17	1330

団 体 : 一般 248組, 学生 36組, 計 284組

◎ 3月の事業収入

(今年度累計)

観覧券売上金	1,137,891	8,485,945
予金積立金利子	66,595	512,764
雑 収 入	330	25,890
魚 類 掛 下	—	10,990
絵はがき掛 下	16,800	141,180
計	1,221,616	9,176,769

◎ 臨時部収入

諸施設改善費より繰入	2,662,412
災害時資金より繰入	40,250
計	2,702,662

◎ 3月の支出

水族館経費

費 目	金 額	累 計	備 考
人 件 費	84,540	1,110,342	
会 議 費	24990	89,572	内海常務委員手当
備 品 費	—	89,820	
消 耗 費	7,270	169,235	
事 業 費	58,905	766,427	
維 持 費	5,710	117,137	
其 他 諸 費	5,835	519,580	
積 立 金	1,803,658	7,195,097	基本財産、災害時資金積立、33年
合 計	1,990,908	10,057,210	度剰余金を諸施設改善費へ繰入

実験所経費

費 目	金 額	累 計	備 考
研 究 費	100.00	130.00	内湯委託
奨 学 金	80.00	96.00	
備 品 費	398.90	554.08	図書
消 耗 費	—	56.10	
刊 行 費	—	498.30	
役 務 費	—	—	
合 計	578.90	1,334.48	

博物館経費

費 目	金 額	累 計	備 考
人 件 費	29.62	337.59	原田研究員旅費
備 品 費	—	77.02	
消 耗 費	—	24.64	
役 務 費	5.00	13.03	海藻標本整理手当(山中)
合 計	34.62	452.29	

臨時費

摘 要	金 額	累 計
送配電工事*	100.64	
ポンプ室新設*	146.00	
海水取入口復旧工事追加*	370.00	
取戻宿舍建設 建築工事	1,147.47	
全上に伴なう家具調度品	462.33	
全上に伴なう造園費	157.96	
海水貯水槽の山くすれの復旧	40.25	
海の生物生態写真集はがき第2集	300.00	
合 計	2,724.66	3,923.27

*海水取入口復旧に伴なう附帯工事

支出合計

(今年度累計)

水族館経費	1,990,908	1,005,721
実験所経費	578.90	1,334.48
博物館経費	34.62	452.29
臨時費	2,724,662	3,923,272
計	4,808,080	15,767,261

◎ 3月末現在高

前月からの繰越	883,802
今月の収入合計	3,924,278
今月の支出合計	4,808,080
現 在 高	0

◎ 前年度との比較

	1958	1959	増 減
入 場 者 数	49138	63015	+ 13877
売 上 金	905,756	1,137,891	+ 232,135
支 出 金	723,960	4,808,080	+ 4,084,120

水族館記事

- ◎ 9日エビ網により瀬戸が瀬で採れた巨大なムラサキヒトデが入槽した。腕長120mm, 腕中27mm.
- ◎ 28日種名不詳のヤドカリの共生するヤツマタスナギンチャクが瀬戸崎西岸沖50～60尋より採れ、同日入槽した。この附近では初めての記録であるので、固定標本として保存した。
- ◎ このヤツマタスナギンチャクと同時に体壁に赤点の散布する美しい小形のイソギンチャク(種名不詳)が多数採集され入槽した。
- ◎ 28日堺の漁師がエビ網により採集した兎耳なオノミチキサングが2体入槽したが、数日を経て上をおおう紅色の外皮がとれて骨格を残すのみとなった。
- ◎ 3月29日現在、観覧水槽に収容飼育中の動物は総計149種、924個体以上で、その内訳は下記の通り

海綿類	2種	ヤギ類	1種	巻貝類	7種
海エラ類	1種	カストガニ類	1種	イカ類	1種
磯ギンチャク類	7種	エビ類	7種	タコ類	1種
石サング類	9種	ヤドカリ類	4種	海シタ類	1種
砂ギンチャク類	1種	カニ類	14種	ヒトデ類	3種
角サング類	1種	アメフラシ類	6種	ウニ類	8種
花ギンチャク類	1種	二枚貝類	3種	ナマコ類	3種

ホヤ類 1種 軟骨魚 7種 硬骨魚 52種
カメ類 3種

- ◎ 原田研究員解説、青井竹三郎氏撮影の「初めて捉えたエビの脱皮」状況が9枚の写真となって3月29日発行のアサヒグラフ誌上に発表された。

博 物 館 記 事

- ◎ トカラ列島以南の熱帯の海にだけすむと思われていた鋭い棘をもっておおわれたオニヒトデが潮岬の海岸で山本虎夫氏によってエビ網収獲物の中より採集された。本州では最初の記録として特記に値することで、1標本は博物館に寄贈された。
- ◎ 3月28日御坊市名田海岸のエビアミ収獲物より採取された異様の太型のヒトデ(種名不詳)1体が尾崎光之助氏より寄贈された。
- ◎ 本年は初頭以来珍しい太型の棘皮動物が相次いでもたらされ博物館の収品に貴重度を加えた。

資 料

- ◎ 3月の気象 (9時観測)
南水槽室 (水温比重はN O.25水槽)

	上 旬	中 旬	下 旬
晴天日数 (16)	5	4	7
室 温 (°C)	$\frac{11.1 \sim 20.5}{14.7}$	$\frac{8.0 \sim 13.6}{11.2}$	$\frac{12.8 \sim 19.2}{15.5}$
水 温 (°C)	$\frac{14.38 \sim 19.38}{16.63}$	$\frac{14.31 \sim 16.57}{15.38}$	$\frac{15.92 \sim 17.92}{16.71}$
比 重 (0.15)	$\frac{25.07 \sim 25.76}{25.54}$	$\frac{25.61 \sim 25.82}{25.70}$	$\frac{24.93 \sim 25.74}{25.54}$

取入口

水 温 (°C)	$\frac{15.21 \sim 19.90}{17.29}$	$\frac{15.10 \sim 17.23}{15.93}$	$\frac{15.82 \sim 18.50}{17.24}$
比 重 (0.15)	$\frac{25.19 \sim 25.75}{25.61}$	$\frac{25.55 \sim 25.92}{25.78}$	$\frac{25.31 \sim 25.74}{25.64}$

来 訪 録

- 3月24日 広島大学水畜産学部実習船豊潮丸（村地教官西田元教官引平の水産科学生13名）
- 3月27日 広島大学教授龍巖博士（鰐足類の藏品研究のため）
- 3月30日 皆生水族館主藤沢与三次氏（水族館施設の視察と気教のため）

昭和34年4月5日 （NO. 79）

編集兼
発行者

内 海 富 士 夫

発行所

瀬戸内海実験所振興会
和可山温泉白浜町
瀬戸内海実験所内
(Tel. 白 浜 温 泉 515)